

## 巻頭言

今年度（2021年度）は心理学部が開設されてから10周年となります。その記念号として、「帝塚山大学心理科学論集」第5号が発行されることを心より嬉しく思います。10年間という期間は過ぎてしまえばあっという間ですが、学部開設の年である2011年3月11日には、2万人以上の方が亡くなられた東日本大震災が発生し、政府関係機関や民間団体、そして多くのボランティアによる被災地への支援が行われました。そして、被災者への心のケアやサポートの必要性がこれまで以上に認識され、臨床心理学を始め心理学の各領域での支援活動や関連する研究活動が活発に実施されました。こうした活動を通じて、日本全体で心理学への理解と関心が高まることで、本学の心理学部や大学院心理科学研究科にも志願者が増加し、学部と大学院が発展する一助となりました。

心理学部となったのは10年前ですが、その以前から本学の心理学の歴史は存在しています。1999年に人文科学部人間文化学科ができ、その中に心理コースが生まれ、それが発展して、2004年に心理福祉学部が心理学科と地域福祉学科の2学科体制で開設されました。多くの先達たちのご尽力で今日の心理学部が成立したことに深く感謝したいと考えます。教職員や関係者、学生諸君の絶え間ない努力のお陰で、帝塚山大学心理学部の社会的評価が高まりつつあることは喜ばしい次第です。

近年の社会の急激な変化は、人々の生活スタイルを変え、新たな社会問題を生み出しつつあります。新型コロナウイルスの流行とそれに伴う仕事や教育のオンライン化、生活・消費行動の変化、子どもの発達への影響などもその一例に過ぎません。これからの心理学に関わる専門的職業人は、変貌する社会と人間を的確に把握し、次々と発生する問題のメカニズムを理解し、対策への道筋を付ける能力が求められます。他者への共感と支援、データサイエンスの資質、社会実装のためのチームビルディング能力などが想定できます。

心理学部では、実験心理分野、社会・応用心理分野、臨床・発達心理分野という3つの分野から、専門科目群が構成されていますが、専門的職業人育成のためには、その中から一つの分野のみを履修させるのではなく、3つの分野のいずれも一定の水準まで習得させることが重要だと思います。私の専門分野は応用心理学の一分野である交通心理学ですが、私の長年の研究テーマである高齢ドライバーの教育や指導の現場では、臨床心理学や学習心理学などの知見が求められますので、学部での研究会や教員間の交流で得られた知見が大変役立っています。その意味で、「帝塚山大学心理科学論集」が、学部教員や大学院生の知見を共有し、新たな成果を生む場として、今後もますます発展することを祈念しています。

帝塚山大学 学長

心理学部 教授 蓮花一己